

「共に労苦するキリスト」

コロサイ 1章21～29節

9月22日の毎日新聞で、火論「弱者の小石」と題されて、弱者が強者の急所を突き、圧倒的な力の格差を覆^{くつがえす}す。非対称戦争の現実である。旧約聖書に登場する「ダビデとゴリアテ」の物語はその原型かもしれない。羊飼いの少年のダビデが、巨人ゴリアテの額に小石を投げ当て、まさかの勝利を収めた。非対称線の古典と言えるのが、ベトナムやアフガニスタンでの戦争だろう、武装勢力は正面攻撃を避けてゲリラ戦に徹し、圧倒的な戦力の米軍を疲弊させ、その世論^{えんせん}を厭戦へと傾けた。彼らの小石は「地下トンネル」であり地中に埋めた手製爆弾だった。

今日、与えられたコロサイ書は、コロサイの教会の信徒に宛てた手紙で、今日の聖書箇所^{箇所}に記されている。2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

と記されている様に、聖書事典によると、2000年前のコロサイの教会が、グノーシス主義の霊肉の二元論によって、霊的キリストと肉体的イエスは結び付かず、十字架の苦難のキリスト像は認めず、イエス・キリストの受肉は認めず、したがって歴史的キリストは否定されたと主張。そして、神秘的な霊力が宇宙を締め、動かしていると信じ、この霊力が神の奥義として知覚される時に人間の救いが全うされるとし、肉の墮落の故に禁欲主義、戒律主義が守られた。

そのような、グノーシス主義に対して、パウロは先に引用した2:8によって、グノーシス主義は所詮、人の考えたことで、空しい騙しごとにすぎないと、論破したのです。

先ほどの新聞の、巨人のゴリアテがこの世を支配している、ダビデの時代は、ペリシテ人であり、パウロの時代はローマ帝国という巨人であり、ギリシャ文化の中で、グノーシス主義という考え方に飲み込まれそうになった時に、パウロがダビデのように用いた「小石」は、その相手に人間が作り出した、実体のない哲学であり、むなしいだまし事であることを証し、この世を支配しているローマ帝国や富の権力に従っているものであり、キリストに従うものではないと断言しているのです。

この事は、2000年を経た現代における、アメリカや中国、ロシアといった大国という政治・武力の権力と富の権力者たちが、保有する武器の原子爆弾や生成AIのコンピューターシステムによって、世界を支配しようとしている大

国が、ある意味、昔のゴリアテが今の支配する巨人と考えられます。この巨人の急所は、武力では、ドローンが、「小石」となり、生成 AI には、情報が大事なのではないのでしょうか？あとは AI に” 1 ” or ” 0 ” の判断ではなく、心の善悪、神の思いである十戒（殺すなかれ、盗むなかれ、隣人物のを欲しがらな）を AI の心臓部に、アルゴリズムとして組み込んでプログラムしてシステムを構築することが大事ではないのでしょうか？

今日与えられたコロサイ書をご一緒に読んでいきたいと思います。

★21～22 節、21 節で「神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。」⇒

1:21 あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。 1:22 しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。

⇒ 21 節：敵対については、ヤコブ 4：4 によると、

ヤコブ 4:4 神に背いた者たち、世の友となることが、神の敵となること
だとは知らないのか。世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵
になるのです。

世の友になるという事は、パウロに言わせればこの世に倣うなという事になるかと思います。

ロマ 12:2a あなたがたはこの世に倣ってはなりません。

22 節で、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、あなた方は、神の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者と
されました。

とありますように、コロサイの教会の方々は、神から離れ、神に心の中で敵対していましたが、キリストの十字架の死によって、その罪を贖われたのではなく、神と和解することが出来たのです。その和解は神の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者と、してくださったのです。

それは、コロサイの人たちの信仰による成果ではなく、神の恵みとして、神の声に聴くものとして、主に立ち返ることが出来たのです。このことは先ほどのロマ書 12：2 節につながっています。

ロマ 12：2 b むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が
神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことで
あるかをわきまえるようになりなさい。

この和解について、コロサイ書によると

【新共同訳】Col 1:20 その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御

自分と和解させられました。

と、記されている様に、天にあるのであれ、ただ御子によって、ご自分と和解させられた

と、「天にあって」もと記されていることは、死して復活して天に昇られた、キリストによって、私たちは和解させられたという事です。

そして、その和解は御子によって和解させられたことであり、私たちからではないという事です。が、ニコリ 5 : 18 によれば

・ニコリ 5:18 これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。 5:19 つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。

神から御子キリストによって、神はご自分と私たちを和解させました。そして 5 : 19 節に示すように、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられた、その内容が、

ロマ書 12 : 2 c 何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

と、私たちにゆだねられている事です。

★23 節で、パウロは言います。「あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。」

1:23 ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

➡また、「揺るぐことなく信仰に踏みとどまり」とパウロに言わせる、神から離れさせる誘惑か、脅威がコロサイ教会の周りに渦巻いていたのでしょうか。

コロサイ書の 2 : 7 ~ 10 によると、福音の信仰を揺るがせるものは、2:8 人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。

と記されている様に、ギリシャ哲学や科学的な考え方（グノーシス主義）の様です、そして、そのことによって、2 千年前のコロサイの教会の世の中が支配していた、ローマ帝国の政治権力は、この世を支配する霊であって、キリストに従うものではない。と記しています。

この 23 節の揺るぐことなく信仰に踏みとどまりは、ロマ書 8 章 38 - 39を思い起こします。

マ 8:38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するもの

も、現在のものも、未来のものも、力あるものも、8:39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

この事は、ロマ書8：9～11に示されている、私たちに内在するキリストであり。神の霊の故なのです。

8:9 神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。 8:10 キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。 8:11 もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

★24～25節、パウロは、コロサイの教会のための苦しみを喜びとし➡

1:24 今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。

1:25 神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。

➡キリストの教会の苦しみを和らげるキリストの教えの足りないところをパウロ自身の身をもって見たしています。そのことは25節の御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをお与えになり、コロサイ教会に仕える者となりました。

この24節の「あなた方のために苦しむ」という言葉で、思い起こす言葉があります。

ガラテア4:19 わたしの子供たち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。

ガラテアの諸教会の人たちに向けた手紙で、ここでは、グノーシスではなく、ユダヤ人の律法主義に揺るがされた信仰でした。その信仰も、キリストが内在していれば揺るがされることの無い信仰になると、パウロは考えています。

★26～27節、26節の「秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。」➡

1:26 世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。

1:27 この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内に
おられるキリスト、栄光の希望です。

➡ 26 節の「秘められた計画」については

・ロマ 16:25 神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。 16:26 その計画は今や現されて、永遠の神の命令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による従順に導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。

そして、27 節でこの秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかをコロサイ教会や異邦人に知らせようとされました。

コロサイの人たちにとっては、創造主である唯一の神を知らず、ましてや私たちに直接かわり、救ってくださる神であることは全く知らなかったのです。

そのことを知っていたのは、ユダヤの民だけでした。その秘められた計画は、創造主である唯一の神が異邦人をも祝福し、救ってくださるという計画です。その計画はガラテア書にパウロによって記されています。

・ガラテア 3:14 それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された“霊”を信仰によって受けるためでした。

・・・>創 22:18 地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

・ガラテア書 3:16 ところで、アブラハムとその子孫に対して約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して「子孫たちとに」とは言われず、一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。
この「子孫」とは、キリストのことです。

そのことは、異邦人であるコロサイの教会の方々の内に抱かれたキリストの栄光であり希望なのです。

★ 28～29 節、28 節で、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、➡

1:28 このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。

1:29 このために、わたしは労苦しており、わたしの内に力強く働く、キリストの力によって闘っています。

➡ 28 節では、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。29 節では、

パウロは、わたしの内に力強く働く、キリストの力によって闘っています。
と、その教え、論ずことが、いかに尋常でないかをこの手紙で記しています。
使徒であるパウロでも、内に居ますキリストの力で、力を強められ、この世の
論理と戦っているのです。

私たちも神の愛によって、結ばれた内なるキリストの愛の律法、愛の論理、
愛の価値によって、今の世の中を判断し、この世は人間に代わって、生成 AI
が支配する世の中になるかもしれない状況になってます。それ以前に世界の国
が右傾化して自分の国さえよければ良いという世界で、戦乱の収まらない、奪
い合いの世界が続く中で、

28 節で、パウロは伝えます。すべての人がキリストに結ばれて完全な者とな
るように、知恵を尽くしてすべての人を論し、教えています。

と、キリストに結ばれた完全な者については、マタイ福音書の 5 : 48 が引照
されていますが、5 : 44 節から述べられている内容なので、お読みします。

・マタイ 5 : 48 ・5:44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自
分を迫害する者のために祈りなさい。・略・ 5:46 自分を愛してく
れる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税
人でも、同じことをしているではないか。・略・ 5:47 自分の兄弟
にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。
異邦人でさえ、同じことをしているではないか。 5:48 だから、あな
たがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者とな
りなさい。」

マタイによる福音書、パウロの言葉から、私たちはキリストの愛の律法、その
究極の教えは、隣人を自分の様に愛しなさい。そして、その隣人は今戦ってい
る相手の人も隣人で愛さなくては、不完全なものなのです。

ここには、異邦人、外国人もみな自分と同じ人間なのです。だから、イエス様
が十字架にかかり、全ての民族のために十字架にかかれ、復活されて、使徒
を通して、その良い知らせを異邦の世界へ伝道されたのです。

<<祈り>>

イエス・キリストの父なる神様、今日はみ言葉を通して、神様のご計画を知る
ことが出来ました。そして、神様がキリストを通して私たちの中にまで働き、
力を与えてくださる事。ありがとうございます。

御子キリストに結ばれて、主の思いによって、知恵を尽くして、キリストの福
音を伝えていくことが出来ます様に私たち一人一人を導いてください。

この尽くさざる感謝と願いを主イエス・キリスト御名によってお捧げ致しま
す。アーメン。